

会報

第306号

岩手県小学校長会
代表 佐藤 卓
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所

第七十一回全国連合小学校長会研究協議会
第五十九回東北連合小学校長会研究協議会
秋田大会 秋田市にて開催



喜名朝博 全連小会長の挨拶

第七十一回全国連合小学校長会研究協議会並びに第五十九回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会が、十月十七日(木) 十八日(金)の二日間、秋田県秋田市の県立武道館を主会場に、市内十会場で行われた。全国から二千三百名を超える小学校長

が参加、岩手県からは佐藤卓会長をはじめ、総勢八十名が参加した。

本大会は、過去六大会研究協議を積み重ねてきた大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」の最後の研究大会であり、そのまとめとして、研究成果を総括する充実した大会となった。

一日目は全体会、文部科学省講話、分科会が行われ、二日目にはシンポジウムと全体会が行われた。分科会においては、全国から二十六の研究

発表がなされた。岩手県からは、第二分科会において宮古地区岩泉町立小川小学校の土井祐之校長が、第十一分科会において岩手地区雫石町立御明神小学校の高橋正好校長が発表し、参加者の学びに資するものとなった。(二面から五面の分科会報告を参照いただきたい。)

喜名朝博会長の挨拶

開会行事において、喜名朝博全国連合小学校長会会長は、大会主題の趣旨に触れるとともに、大会の意義について、次のように述べた。

我々校長は、これからの新しい時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等、中教審の審議の動向に注視しつつも、学習指導要領の改訂の理念に基づき、目の前の子どもたちに必要な資質・能力を身に付けていくという使命を果たしていかなければならない。それは、未来社会の構成員である子どもたちに必要となる力であり、その育成のために教育課程や学校経営の工夫改善が求められる。それら

の解決策を得るとともに、自らの専門性向上のために、本会を学びの場としたい。

文部科学省講話

文部科学省初等中等教育局審議官矢野和彦氏より、新しい時代の初等中等教育の在り方について、諮問の概要を講話いただいた。

知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は学力水準を高め、社会性を育んできた。それを支えてきたのは、教師の献身的な取組である。一方で、社会の急激な変化とともに、児童生徒の語彙力や読解力の低さ、学習意欲の希薄化、いじめや虐待件数・障害のある児童生徒・不登校児童生徒・外国人児童生徒の増加、教師の時間外勤務時間の問題、情報機器環境の脆弱さ等の課題が顕在化している。

文部科学省では、これからの初等中等教育の在り方について「新学習指導要領の実施」や「学校における働き方改革」を軸に総合的に検討している。

シンポジウム

シンポジスト

(株)マネージメント・リサーチ 代表取締役

佐々木常夫 氏

読売新聞特別編集委員

橋本 五郎 氏

内閣官房ふるさと活性化支援チーム委員

丑田 香澄 氏

「自ら新しい社会を切り拓いていく子どもたちへ」のテーマの下、「ふるさと」「志」「未来創造」をキーワードに進められた。これからの社会を力強く生きていく子どもを育てるには、学校の可能性、教師の影響力はとても大きい。何が大切かを考えて力強く実践してほしいというメッセージをいただいた。



第71回全国連合小学校長会研究協議会秋田大会
第59回東北連合小学校長会研究協議会秋田大会

第一分科会(経営ビジョン)

未来を見据えた魅力あるビジョンに基づく学校経営の創造

紫波町立赤石小学校

高橋 長兵

視点一は、「未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定」として滋賀県米原市伊吹小学校北村義彦校長から、未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンを策定していく上での校長の果たすべき役割と指導性を、学校教育目標を変えらることを通した取組が発表された。

魅力ある学校経営ビジョンの作成にあたり、保護者や地域住民の思い、子どもの実態に関する現状把握と分析を的確に行い、教職員の知恵と力を結集させ、組織を効果的に動かしていくマネジメントが求められていることが確認された。

視点二は、「学校経営ビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進」として、秋田県大館北秋田地区校長会から新小学校学習指導要領総則に基づいた教育課程のチェックリストを作成し、体系化された教育課程を創出す

るカリキュラム・マネジメントの方法を探る取組が発表された。

経営ビジョンは、「生きる力」を育むために、教育課程を有機的に関連付け、順序立てて示さなければならぬこと、そして校長は新学習指導要領総則を指標にして見直し、体系化していくことが紹介された。

グループ協議を通じて、創意と活力に満ちた学校経営について研修することができた分科会となった。

第二分科会(組織・運営)

学校経営ビジョンの実現を図るための組織づくりと組織運営

宮古市立津軽石小学校

島越 禎悦

視点一では、「学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくり」として、富山

県富山市立山田小学校中橋秋芳校長から「課題と目標を共通理解するための統一性、一貫性のある教育計画の作成」「良好な人間関係を核とした運営組織づくりの工夫」という二つの視点で富山市小学校長会の実践が発表された。グ

ループ協議では、学校経営ビジョンの実現を図るために、実効性の高い運営組織づくりに果たす校長の役割やリーダーシップについて活発に交流が深められた。

視点二では、「活力ある運営を実現するための組織の活性化」として、岩泉町立小川小学校土井祐之校長より、「教職員の学校運営参画意識を向上させるための校長の在り方」という研究主題で、宮古地区小学校長会の実践が発表された。岩手県独自の「まなびフェスト」を勤務状況確認シートや学級経営案に位置付けること、ボトムアップによる「まなびフェスト」の作成、保護者や地域を巻き込んだの作成などにより、教職員の参画意識の向上につながった事例が紹介された。



教職員の参画意識の高揚と活力ある組織づくりに、校長が果たすべき役割は重要である。分科会では多くの事例を学ぶことができ、大変有意義であった。

第三分科会(評価・改善)

学校教育の充実を図るための評価・改善の推進

久慈市立霜畑小学校

高橋 昌克

視点一は、「学校経営の組織的かつ継続的な改善に向けた学校評価の充実」で、岡山県倉敷市児島地区校長会から、実効性のある学校評価と継続的な学校改善の推進のための校長が果たすべき「四本の柱」として、①「何を評価するのか」明確な学校経営方針の提示、②「正しい評価を得るため」の情報発信、③「適切に評価結果を分析するため」の組織づくり、④「評価を改善に生かすため」の評価者意識の改善があげられ、これらに沿って各校の独自性も加味しながら、具体的な形で実践を行っている様子が紹介された。

視点二では、「学校経営の

組織的かつ継続的な改善」として、山形県田川小学校長会から、教職員人事評価に関わる課題を解決するための校長の役割と工夫についての発表があった。重点目標とのつながりを明らかにして自己目標を設定し、学校評価と連動させながら、客観性・公平性・納得性のある人事評価となるよう工夫を行っていた。

二つの発表を受けてのグループ協議では、それぞれの学校の状況や課題等も出し合いながら、校長としての明確なビジョンのもと、評価者が適切に評価することができるように環境を整えること、人事評価が教職員の資質の向上に確実に結びつくものになるようにすることが確認された。

第四分科会(知性・創造性)

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメント

一関市立山目小学校

小山 祐二

視点一については、京都府城陽市立寺田小学校田村正秀校長から「『生きる力』を育む学習指導と校長の指導性について」と題して取組が発表

された。

全員が共有する学力のグラ
ンドデザイン、目標達成の手
順の整理、目標達成までの
ファイルと学習活動、そし
て各取組の P D C A サイクル
の確立と有機的学習活動を図
るための組織体制など、様々
な取組が紹介された。まとめ
として、「身につけさせたい
力」の系統性をさらに明確に
していくことや校長として
様々な視点で実態を把握し指
導することなどが示された。

られる組織づくりが必要であ
ることなどが示された。

第五分科会(豊かな人間性)

豊かな人間性を育むカリキュ
ラム・マネジメント

釜石市立釜石小学校

高橋 勝

視点一「豊かな心を育む道
徳教育の推進」では、香川県
三木町立田中小学校小笠原学
校長より、実践が発表され
た。校長が学校教育ビジョン
を明確に示すこと、校長が
リーダーシップを発揮し、地
域・保護者・学校が開かれた
教育課程のイメージや道徳教
育の目標等を共有すること、
共通理解の場としての学校運
営協議会の活用が紹介され
た。学校運営協議会の中で、
児童自身が取組を発表し、運
営委員と意見交流の場を設定
しているということが興味深
かった。

グループ協議では、道徳教
育推進に当たって、「人づく
り」「環境づくり」「システ
ムづくり」「授業づくり」の
視点が大事であることが確認
された。

視点二「よりよい社会を創

る人権教育の推進」では、宮
城県気仙沼市立月立小学校村
上克弥校長より、実践が発表
された。「共生の心を育む」
をキーワードに、教育課程の
編成・改善、受容的・共感的
な学級経営、家庭・地域・関
係機関との連携・協働の三つ
の視点を設定し、実践と第三
次までのきめ細かな調査結果
に基づいた、校長の役割につ
いての提言が紹介された。

第六分科会(健やかな体)

健やかな体を育むカリキュラ
ム・マネジメント

大船渡市立大船渡北小学校

藤村 敏夫

た。成果として、「体育専科
加配による授業の質の向上・
運動能力の伸長」「運動好き
な児童の増加」「働き方改革
につながる教材研究の軽減」
が挙げられた。課題として、
小中連携と低学年児童への指
導が挙げられていた。「健康
寿命をのばそう！」という地
域課題とも向き合い、生活へ
の広がりも感じられた。

視点一「生涯にわたって豊
かなスポーツライフを実現す
る資質や能力を育てる教育活
動の推進」について、群馬県
館林市校長会から「地域と連
携しながら楽しくスポーツに
取り組み、自らの健康を維持
できる児童を育成する教育活
動の推進に校長の果たす役
割」と題して発表が行われ

グループ協議では、喜びを
味わわせる体育授業の充実、
家庭・地域の教育力の活用、
楽しくスポーツに取り組み
きっかけ作り、カリキュラム
マネジメントの重要性の認識
と方向性の明確化が話し合わ
れた。

第七分科会(研究・研修)

学校の教育力向上を目指す研
究・研修の推進

一戸町立一戸南小学校

飯岡 竜太郎

視点一「学び続ける教員像
の確立を目指す研究・研修体
制の充実」では、大分県竹田
市から「若い教員の実践的指
導力を高める研究・研修にお
ける校長の役割」についての
実践発表があった。校内研究
の意義や目的、自己目標との
関連などを教員自身に認識さ
せ、教員の実践意欲や実践的
指導力を高めようとする取組
についての内容であった。実
践発表に基づくグループ協議
では、経験や役割に応じたマ
ネジメントや助言が重要であ
るとし、ベテランのノウハウ
や若手の持ち味を生かした研
修計画を立てる等、主体性や
意欲を高めるための手立てが
あげられた。

視点二「『チーム学校』の
経営意識をもたせる研修の推
進」では、福島県新地町から
「ふくしまの復興に向けた
『チーム学校』の参画意識を
もたせる研修の推進」につい
ての実践発表があった。①専

門性に基づくチーム体制の構築、②学校マネジメント機能の強化、③教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備、の主に三点の内容についてであった。グループ協議では、校長が学校のグランドデザインを提示し、校内研修と自己課題を結び付けること、学習活動や資質・能力をベースとした校内研究主題を設定すること等について話し合われた。

第八分科会(リーダー育成)

これからの学校運営を担うリーダーの育成

奥州市立胆沢第一小学校
高橋 浩喜

視点一「学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーの育成」では、北海道帯広市小学校長会の取組が発表された。ミドルリーダー育成のために、毎週月曜日に十五分の時間を設け、学校経営の視点から学校を見渡す機会を

設定している事例や、学校間を越え、ミドルリーダー同士の交流を進めさせることで、管理職への意欲と自覚を高めさせる方策などが発表された。

発表を受けてのグループ協議では、中堅層をリーダーに抜擢した際のベテラン層のモチベーションアップについて話し合われ、盛り上がった。

視点二「社会の変化に主体的に関わる人間性豊かな自ら学び続ける管理職人材の育成」では、秋田県湯沢雄勝小学校長会の取組が発表された。研究アンケートの中に、「校長自身がリーダー性を育てられた場面はどこか」という設問があり、視点が鋭く大変参考になった。また、研究主任が日頃から自校の授業を見て回ったり、研究会でのアドバイスを積極的に行ったりするなどの、研究主任を育てるための方策が参考になった。

グループ協議では、管理職の姿が魅力的に映るよう、管理職自身はつらつと楽しく仕事をすることがとても大切であることなどが話し合われた。

第九分科会(学校安全)

命を守る安全教育・防災教育の推進

遠野市立上郷小学校
佐藤 健一

視点一は「自ら判断し、主体的に行動できる子どもを育てる安全教育・防災教育の推進」として、富山県富山市立古里小学校荒田修一校長から「自ら判断し、行動できる子どもを育てる持続可能な防災・安全教育の推進と校長の役割」が発表された。子ども

自らが防災意識と態度を身に付ける組織と学校文化を育成する実践、各教科等の指導との関連を図り子どももの防災意識を高める体験活動の充実などで、校長は、想定を超える事件事故に対応できるように「自分の命を自分で守る子ども」「その場にに応じて対応できる職員」の育成のため、防災教育、安全教育を教育課程に適切に位置づけ、ねらいを絞った体験活動を積極的に推進していく必要性があるということが確認された。

視点二は、「家庭や地域社会との連携を図った意図的・計画的な防災に関わる取組の

推進」として、山形県酒田市立亀ヶ崎小学校齋藤正志校長から「安全・安心を確保し、命を守る防災教育の推進」家庭・地域・関係機関と連携・協働した取組を通して」が発表された。校長は、学校経営の中心に「命の教育」を据え、先頭に立って、家庭・地域・関係機関と連携・協働した取組を推進していくリーダーシップと覚悟と決断力が重要であることが確認された。

第十分科会(危機対応)

様々な危機への対応と未然防止の体制づくり

北上市立黒沢尻東小学校
大沼 英生

視点一「いじめ・不登校等への適切な対応と体制づくり」では、福岡県広川町小学校長会の実践が発表された。町内の学校規模による課題改善・解決方法の策定、問題事象想定実践的研修・カリキュラムマネジメント研修による実践的支援、職務別サポート体制・定期的対策委員会・担任サポート体制による個別の実践サポート等の取組により

危機意識の高揚、危機対応能力の向上、PDCAサイクルによる課題改善・解決意欲の向上が図られたことが確認された。

視点二「高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり」では、青森県八戸市小学校長会の実践が発表された。実態調査アンケートによる各校の課題の明確化、危機管理マニュアル・学校安全計画の組織的な見直しと改善、危機管理能力育成と組織づくりを推進する校長の役割の考察により各校の実態が明確化、校務支援システムの活用による自校の改善、危機対応に関する校長の意識高揚が図られたことが確認された。

グループ協議においては、各県各校の実践が交流された。



各校の児童や保護者、地域の実態にに応じて地域組織や関係団体、行政と連携した様々な取り組みが協議され、大変有意義な話し合いがなされた。

第十二分科会(社会形成能力)

社会形成能力を育む教育活動の推進

雫石町立雫石小学校

新屋 敏明

視点一「社会の発展に貢献する資質・能力や態度を育む教育活動の推進」では、北海道後志小学校長会の実践発表がされた。社会形成能力育成に関わる経営シートの作成を紹介する具体的な取組だった。学校経営方針での実践は、今年度が初めてで、推進と効果の検証が課題であり、今後のマネジメントが重要で



ある。

視点二「地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進」では、御明神小学校

高橋正好校長から新学習指導要領の完全実施を見据え、小中九年間のつながりを意識した「しずくちゃんパスポート」の先進的な発表がされた。教職員の意識の変容や中間の協議などについて質問が出された。グループ協議では、経営ビジョンの明示、地域連携、地域人材の掘り起こし、地域愛を育む活動などについて、意見が交わされた。

雫石町校長会の研究は、大会最終日の全体会「研究協議のまとめ」で、①小中九年間を見通した指導計画の作成、②組織的・協働的な取組の二点において、高く評価された。

両視点の協議を通じ、校長として果たすべき役割と指導性の重要性が確認された。

今後さらに、町校長会として、本町中小教職員がお互いの取組について学ぶ機会を設定するなど、小中のつながりをより意識したキャリア教育の推進に資するような取組を進めていきたい。

第十二分科会(自立と共生)

自立と共生の実現に向けた実践的な態度や能力を育む教育の推進

花巻市立大迫小学校

佐藤 勤

視点一では、広島県尾道市因北小学校若加幸代校長から「自立と社会参加に向けた特別支援教育の推進」との研究主題で自校の実践が発表された。特別支援教育のための体制整備、ユニバーサルデザイン

の取組、一貫性のある支援とスムーズな接続の三つの観点での取組であった。特に実効性を有する体制整備としてケース会議により、当該児童の課題を教職員が共有し、具体的支援方法を考え、実践・評価している取組は参考となった。また、学級集団や個性の特性を理解するための「アセスメントシート」の実施についても興味深い内容であった。

視点二では、宮城県仙台市立生田小学校発生川義浩校長から「持続可能な社会の担い手を育む環境教育を目指して」との研究主題で仙台市市長会の実践が発表された。

学校周辺の森や川での活動を通して環境に対する豊かな感受性を育む実践であった。その中で校長の果たすべき役割として、外部との連絡調整、教職員の意識改革、学校目標との関連付けを図った環境教育の推進等の「ヒト・コト・モノ・カネ」に関わるマネジメント力の必要性が確認された。

校長として、変化に対応するだけでなく、「変化を生み出す姿勢」が重要であることを改めて感じさせられる分科会であった。

第十二分科会(連携・接続)

家庭・地域等との連携及び協働と学校段階等間の接続の推進

盛岡市立上田小学校

近藤 尚樹

視点一で発表予定だった山梨県北都留地区校長会は、台風十九号の影響で参加することができなかった。そのため、参加者で要録を読み合

い、その後グループ協議を行った。要録に記載された発表内容には、大学と連携し生活科や校外学習に学生ボラン

ティアを活用する実践例があった。

グループ協議では、地域行事への参加について教員の負担軽減という点も考えていきたい、校長の役割としては取捨選択することが大事であるネットワークすることが大事であるなどの話題が出された。

視点二では、秋田県本荘市利地域校長会から発表があった。地域全体や幼児も応援する小中合同の駅伝大会や、小中学生一緒の合唱など地域一体となった活動が紹介された。グループ協議では次のような話題があった。小中連携と共に小学校間の連携も大事である。そのためには校長同士

のつながりを大事にしたい。校長は置かれている状況を把握・判断し、ビジョンを示すこと、職員のやる気を引き出すことが大事である。

家庭や地域、学校間の連携における校長の役割について、大変学びの多い分科会だった。

最後に、運営責任者の「何年も前から準備してきた山梨の方も、発表できなかったことを無念に思っているだろう」という言葉が印象的だった。

地区校長会研究交流

創意・工夫を生かした 特色ある学校経営の実現を目指して

盛岡市小学校長会

一 はじめに

盛岡市小学校長会は、岩手

県小学校長会の推進母体であるという認識に立ち、岩手県並びに盛岡市の学校教育の基
本方針を元に、会員相互の結
束を図りながら、盛岡市小学
校教育の振興・発展に向けて
活動しています。そして、市
内四十三校の情報交流や研究
研修活動を通して、会員相互
の連携を強化しています。ま
た、総務部・行財政部・研修
部・広報部・生徒指導部の組
織を持ち、岩手県小学校長会
の円滑な運営推進に寄与して
います。

二 研修計画の概要

【研修方針】

校長の専門職及び学校経営
者としての見識や力量を高
め、資質・能力の向上を図る
ために、「主題研修」「一般
研修」「視察研修」の三つを

柱にして研修を進めていま
す。

【主題研修】

隔年で開催される岩手県小
中学校長研究大会の発表に向
け、同じ生まれ年の会員を中
心に研究推進員に位置づけ、
さらに全会員を班員として配
置して研究を進めています。

◆昭和三十七年度班

研究主題「教育活動の活性化
を図る学校評価と学校運営の
改善」教育の質の向上を目指
した学校評価・運営の構築
」

◆昭和三十八年度班

研究主題「防災教育や自然災
害への対応」学校単独の取組
や他校種、地域との連携した
防災対応推進」

来年度開催される花巻大会
に向けて、研究推進員・班員
の協力により共同で研究を進
めています。全体研修の場
は、年四回です。

【一般研修】

◆教育講話

現在の教育課題や学校経営
上の諸問題、全国・県・市の
動向、校長としての資質能力
の向上に関する講話を拝聴し
ています。（以下、本年度実
施した内容です。）

○行政説明

盛岡市教育委員会学校教育
課指導主事三名により、本年
度の重点である「学力向上」
「生徒指導」「特別支援教
育」について説明していただ
きました。

○教育長講話

千葉仁一教育長様より、
「教育行政上の諸課題」と題
して市議会の質問内容や働き
方改革、主権者教育等につい
て講話をいただきました。

○教育講話 一

元県小学校長会会長 柳村
栄様より「今、思うこと・
ひとりごと」と題して校長と
して実践してこられた数々の
取組をお話ししていただきま
した。

○教育講話 二

原敬記念館館長 山内昭様
より、「郷土の偉人 原敬」
と題して、その業績や歩みを
お話ししていただくことも

に、常設展や生家を案内して
いただきました。そして、先
人教育について理解を深めま
した。

◆会員講話

今年度末で退職する会員か
ら「学校経営に対する考えや
実際」「実践から得たもの・
教訓」等後輩校長に伝えたい
ことを発表していただいでい
ます。三十数年間にわたる教
員生活で得られた想いや信条
は、大きな励ましの言葉と
なって後輩校長に伝えられて
います。本年度は、十名の先
生方からお話をいただきます。

【研修視察】

現在の教育課題の解決に向
けて積極的に取り組んでいる
首都圏の学校を毎年視察させ
ていただいでいます。

本年度は、十二月五日・六
日の日程で、石川啄木との縁
で、盛岡市と姉妹都市提携を
行った東京都文京区の「窪町
小学校」と、教職員の働き方
改革に向けて先進的な取組を
している横浜市の「北山田小
学校」の二校を訪問させてい
ただくことにしています。両
校では、校長先生から学校経
営についてご教示いただくこ
とも、授業参観もさせてい

ただくことにしています。

【その他】

年六回の研修会では、これ
らの内容の他に、県小学校長
会生徒指導専門委員が行って
いる生徒指導に関する調査か
ら、盛岡市の結果を発表して
いただき、市の特徴や配慮し
なければならぬことについ
て共通理解を図っています。

また、総務部事務局が中心
となって、各校が直面してい
る喫緊の課題について情報交
換も行っています。今まで
行った主な内容は、「働き方
改革について」「自然災害に
対する危機対応について」
「学級崩壊を防ぐために」
「道徳の評価」「時間外勤務
への対応」「コンプライア
ンスについて」等です。

三 おわりに

本研修会は、各校がかかえ
ている課題や悩みを共有し、
その解決に向けて知恵を出し
合う大切な機会となっております。今後も、山積している教
育課題の解決のために、会員
相互が力を合わせて取り組ん
でいきたいと考えています。
(盛岡市立見前南小学校)

千葉 亨

はつひんせ はつひんせ

一 江刺の人文字だちい①

余寒厳しい如月下旬、江刺青年会議所の新役員面々が来校しました。若い時分に本校に在職した際の教え子たちであり、聞けばある「お願い」があるのだということでした。

彼等は以前から温めていた当所の設立五十周年の記念事業の構想を話し始めました。

次年度の教育計画の骨格もほぼ決定し、対外行事等の挿入は正直難しい旨を説明し、心残りとし、訳なさを感じつつもその場は丁寧にお引き取りを頂きました。

二 「ひと・こと・もの」とのコミュニケーション

どこの地域でも言われ、聞かれることですが、子ども等の「元氣」は郷土の活力の源であり、地域振興の起点です。

社会の現況や教育力の停滞・低下の状況に鑑み、「未来の地域」を創造する「逞しい地域人」の育成は「地域の中の『学校』」にとつて重要な責務の柱です。「ひと・こと・もの」との直接的なコミュニケーションの中で、ふるさとの体温や香り、リズムや音を体感しながら、たくさんの方の想いや願いを受け止め、伸び伸びと自己実

現を図る子どもたちが育つていくための基盤整備が求められる昨今です。

本校・本地区では地域に在する種々の教育機能や素材の活用を教育課程の中に具体的に組み込み「多くの方々との教育活動への参画」を前提にした環境づくりⅡ「大人が汗をかく仕組みづくり」が地域・家庭との連携・協働の下で積極的に進められています。

三 江刺の人文字だちい②

再度の来校で、彼らが掲げたテーマはズバリ、「夢」。

子どもたちの「ふるさと『愛』」を育みつつ、でっかい「夢」をもって、未来の「えさし」を創造する「人材の育成の手伝いをする。」とのまさに「青年の主張」ばりの大熱弁。

彼らの迫力に完全に圧倒され、十二名の江刺の小学校の校長先生方のご理解と市教委のご協力を得て、紆余曲折を繰り返しながらも、「プロジェクト」は動き始めたのでした。

四 ひとつづくりの根本理念

本校の「ひとつづくり」の根本は「『しる』ことをまなぶ、『なす』ことをまなぶ、『ともしを生きる』ことをまなぶ、『人としてまなぶ』ことをまなぶ」の四点に集約され、このことは、現在にいたるまで不易の理念として息づいています。

2011.3.11
東日本大震災からの復興
今日から明日へ 一歩ずつ
胆江地区

① 岩谷堂や奥州市を愛し、ふるさとの素晴らしさをしり、その振興や発展、未来について考えることが出来る子どもを育てる。

② 人々の営みにふれ、その思いや願い、努力や工夫について考えながら心やさしく、たくましく生きようとする態度を育てる。

③ 「命」の尊さをしり、周囲の状況を考えながら、人の尊厳を重んじ、自他の生命を大切にし、守ることのできる心と力を育てる。

「岩谷堂小学校『ひとつづくり』の章



五 江刺の人文字だちい③
彼らの脳裏にある重要なイメージは、二十六年前、自らが小学生の頃に参加した「人文

字」の記憶。かつて同所の先輩たちの手で「えさし藤原の郷」の開園事業として行われた「人文字だちい」の感慨を原点に、子どもたちへ「その思い」をおすそ分け。というのが事業創造の発端。

今回は、映画等のロケでよく使われる同園の「政庁」を舞台に、テーマである「夢」の「大文字」を江刺の小学生で描くことに。プロジェクトの名称は、「人文字だちいリターンズ」… お見事です。

たくさんの方の付帯事業が次々と行われ、また、彼等に賛同する多くの団体・住民の手によって着々と準備が進み、現地では、やはり当時の小学生だったボランティアや保護者の皆さんが大挙して笑顔で汗を流しています。そんな素敵な場面があちこちで見え隠れする我が「夢の郷」でした。

六 「温故知新」

今回、彼らの「熱意」に付き合っただけが付いたことは「復興教育」なる言葉は「新しくて古く」、それでいて「温かく力強い」響きであること。

震災後、我々がある意図をもって進めてきたであろう考え方の根幹は、実は本県教育の根底にあつて、普通の論理として脈々と流れ続けているということを実感させられずにいられない事実であったと同時に、本校

の「ひとつづくり」の具体的な意義や価値を確認できる機会ともなりました。

「子どもたちは十年経てば大人になり、さらに十年経てば親になる」… 世代を超えてふるさとへの「夢」は確実に引き継がれています。

そして、そうしたアクションを興し、増幅し、「ふるさとを創造」していくのは、間違いなく、熱くて、豊かで、逞しい「想い」と「郷土愛」を全身に纏った子どもたち。

「子どもたちの元氣は地域の元氣」という言葉の意味の本質はここにあるのです。教育という生業の素晴らしさを感じ入った爽やかな秋の昼下がりでした。

「人文字だちいリターンズ」
於 歴史公園えさし藤原の郷



写真提供：(公社)江刺青年会議所

ふるさとを
夢で紡ぎし 童(こ)の絆
(奥州市立岩谷堂小学校
校長 佐久間 充)

事務局日誌抄

- 4月19日 第57回岩手県小学校長会総会（盛岡市都南文化会館）
第1回理事会・第1回評議員会合同会議（盛岡市都南公民館）
各部担当理事・地区担当者・専門委員合同会議
総務部、行財政部、研修部、広報・編集部、生徒指導部（盛岡市都南公民館）
- 26日 岩手県中学校長会総会（サンセール盛岡）佐藤会長出席
- 5月10日 岩手県公立小中学校事務職員研究協議会総会（盛岡市都南公民館）佐藤会長出席
- 16日 岩手県公立学校退職校長会定期総会（サンセール盛岡）佐藤会長出席
- 17日 東北連小第1回理事会・研修会（秋田市）佐藤会長、仁昌寺副会長、太田部長、石亀書記出席
岩手県退職公務員連盟第72回定期総会（岩手県公会堂）古玉部長出席
- 21日 全連小第232回理事会（東京・KKRホテル東京）佐藤会長、太田部長出席
- 22日 全連小第71回総会（東京・ニッショーホール）佐藤会長、太田部長、小笠原校長（矢町町立煙山小）、高橋校長（奥州市立水沢小）、吉野校長（一関市立一関小）出席
- 25日 日本教育会岩手県支部定期総会（サンセール盛岡）仁昌寺副会長出席
- 6月2日 （一社）岩手県PTA連合会定時社員総会（サンセール盛岡）佐藤会長、仁昌寺副会長出席
- 10日 第2回理事会（盛岡市勤労福祉会館）
第1回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）
- 19日 東日本大震災被災地視察訪問（陸前高田市立気仙小学校）佐藤会長、太田部長、中村部長
- 27日 東日本大震災被災地視察訪問（釜石市立吉里吉里小学校）佐藤会長、太田部長、久保部長
- 7月4日 東北連小第2回理事会・研修会（秋田市）佐藤会長、仁昌寺副会長
- 8日 東日本大震災被災地視察訪問（宮古市立欽ヶ崎小学校）仁昌寺副会長、古玉部長、石橋部長
文部科学省・全連小役員懇談会（東京・東海大学校友会館）佐藤会長出席
全連小被災三県校長会長懇談会（東京・全連小事務局）佐藤会長出席
- 9日 全連小小学校長会長連絡協議会（東京・KKRホテル東京）佐藤会長出席
- 30日 第52回東北学校保健大会（盛岡市民文化ホール）佐藤会長出席
- 8月26日 岩手県教育委員会との教育懇談会（サンセール盛岡）常任理事出席
- 28日 現職・退職両校長会教育懇談会並びに懇親会（サンセール盛岡）常任理事出席
- 9月13日 第3回理事会（盛岡市勤労福祉会館）
- 10月16日 全連小第233回理事会（秋田市・ホテルメトロポリタン秋田）佐藤会長、太田部長出席
- 17～18日 第71回全国連合小学校長会研究協議会秋田大会（秋田県立武道館他）参加者80名
- 25日 台風19号被災地視察（久慈・宮古地区）佐藤会長、仁昌寺副会長、太田部長
- 11月6～7日 東京電力福島第一原発・被災学校等視察研修（福島県内）太田部長、石橋部長、石亀書記参加
- 8日 第4回理事会・第2回評議員会合同会議（盛岡市勤労福祉会館）
第2回東日本大震災対策特別委員会（盛岡市勤労福祉会館）

編集後記

十月十二日、台風十九号が日本列島に上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。その日から数日後に行われた全連小秋田大会には、欠席を余儀なくされる県もありましたが、本県は県団としてまとまって八十名で参加することができました。風光明媚で自然豊か、温かい人柄の隣県秋田のよさが伝わる大会でした。本大会の副主題は「ふるさとを愛し、志をもって自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」、この副主題のもと、各地の実践発表がなされ、ふるさとへの愛着を感じるとともに、「東北は一つ」のスローガンも感じ入る大会となりました。この台風により、本県においても校舎被害に遭った学校があり、県小学校長会として釜石・宮古・久慈地区の三校にお見舞いをしたところで、一日も早い復旧復興を願うばかりです。

本号では、復興教育の取組を胆江地区から、地区校長会の研究活動について盛岡地区から、そして、全連小の分科会報告を各地区からいただきました。ご多用の中、貴重な原稿をお寄せくださいました先生方に心より感謝申し上げます。

（担当 石橋多賀子）